

ポスター発表の手引き

日本中世英語英文学会事務局

2014年9月作成

2015年11月改訂

《目次》

1. ポスター発表とは
2. ポスター発表までの手順
3. ポスター発表の要領

1. ポスター発表とは

1.1 口頭発表との相違点

- ・ポスターとは、大きな紙ないし厚紙に、文章・表・グラフ・写真などを、視覚情報として提示したものである。
- ・このポスターを用いての研究発表がポスター発表であるが、学会報告に比べてフリー・ディスカッションの性格が色濃いという特徴をもつ。
- ・視覚情報を多用した掲示方式、発表者と直接対話できる少人数制に加えて、時間的な制約も小さいので、発表者・参加者とも、徹底的に議論することができる。
- ・聞き手との距離が近く、気楽に接しやすいことから、発表者にとってもフロアの反応が分かりやすく、アドバイスも受けやすい。
- ・互いの顔をおぼえやすいので、若手研究者にとっては自己アピールの好機であり、また人間関係の輪を広げる格好の場ともなる。

1.2 ポスター発表に求められるもの—参加者の視点から—

- ・参加者のメリット：会場を自由に動き回れること。
- 実際、参加者の多くは、当日、歩き回りながら、興味を引くポスターを探すことが多い。
学会報告に比べ、その場で参加者の関心を引くことが重要になる。

1.3 会場の雰囲気と状況

- ・会場はオープン・スペースで、同時に複数のポスターが掲示される。
- ・参加者はポスター展示会場を自由に見て回り、発表者と直接対話するので、会場各所で同時並行的に議論が行われる。
- ・発表者は、基本的にはポスターの側に待機しておく。そして適宜、参加者からの質問に答えたり、補足情報の提供、あるいは参加者の注意をポスターに引くなどする。
- ・参加者の関心を引くことが重要な以上、まず遠目に「もっと近寄って検討したい」と思わせることが発表者の課題となる（目安として「およそ3m離れたところから目を引く」よ

う心がければよい)。

・ただ「近寄って検討」する際にも「1mほど離れて見やすい」ことが条件となる。
以上はおよその目安だが、いずれにせよ、見やすさを心がけることが重要である。

2. ポスター発表までの手順

2.1 ポスターの作成

・ポスターは、当日までに発表者自身が準備する。
・ポスターの構成は自由であるが、文字や図表の大きさなど、見やすさに十分に配慮する必要がある。 →「あまり詰め込みすぎない」ことが肝要。

・ポスターには次のようなタイプのものが考えられる。

(1) A4 や B4 など比較的小さいサイズ of 用紙を多数組み合わせせてパネルに貼り出すもの。

→複数の用紙に分けて掲示する場合、見る順番を示した番号を振っておく。

(※発表者がポスターの側にいない場合でも参加者の理解が容易になるよう配慮する)

(2) プリンタの「ポスター印刷機能」を利用して分割印刷したものを組み合わせたもの。

→プリンタによっては機能がサポートされていないことがあるので要注意。

→「ポスター分割印刷」「ポスター印刷ソフト」等のキーワードで Web 検索をすると印刷の手順やフリーソフト、市販ソフトについてさまざまな情報が得られる。

(3) 所属機関のポスタープリンタ、大判プリンタを利用して出力したもの。

→情報処理センター等で出力サービスを行っていることがある。

(4) 業者に依頼する。

→オンラインでの注文を受け付けているところとして

http://www.pleonet.com/poster_print/modules/pico/index.php?content_id=47

(※このサイトにはポスター印刷に関する重要な情報が多数掲載されている)

<http://www.kinkos.co.jp/>

などがある。業者に依頼すると A0 サイズで約 5,000～10,000 円程度の費用を要する。

・

2.2 ポスターの掲示

・ポスターは会場の指定されたパネルに貼り出す。

・パネルのサイズは別ファイル参照。

→ボード面はクロス張りなので、掲出には画鋸が必要。各自で用意してください。

・ポスターセッションの時間帯は大会プログラムに記載の通り。準備開始が可能な時刻は大会準備委員会と調整の上、事務局より追って連絡する。

・ポスターの縮刷版やハンドアウト、参考文献一覧等の関連資料は発表者で用意する。

→これらに加えて、名刺や既発表論文の抜き刷り等を用意しておくのもよい。

3. ポスター発表の要領

3.1 ポスターの形式と内容

・ポスターの形式は自由。発表者のセンスに委ねられる。いずれにせよ、見やすさが重要である。

・ポスターの内容は、研究報告、論文の構想発表、中間経過報告、プロジェクトの概要報告など多様なものが考えられる。

・研究報告ならば、下記のような形態をとると見やすい。

表題 内容を簡潔に示すと同時に、大きく読みやすいフォントを使用する。

要旨 別紙(2.2 参照)にて用意しない場合はポスターに記載する。見やすさと同時に、結論がすぐに分かるよう留意する。

本文 序論、本論、結論の三部構成が望ましい。ポスターだけでも流れを追って理解できるように内容にストーリーをもたせる。

・修士論文などの構想発表

表題、何を研究対象に、どこまで進んでいるか、今後の方向性、現時点での問題点等を簡潔に示す。

・フォントサイズについては最終的な出来上がりの段階で、もっとも小さな文字でも 60pt 程度ないと、読みにくい。表題についてはもっと大きなサイズにする必要がある。

3.2 ポスター発表の場での留意点

・「説明：X 月〇日 12:00, 12:45」のように発表を開始する時間を明示しておけば、参加者は計画的に回ることができるし、発表者が他のポスターを見に行くことも可能になる。

・最終的には、参加者の流れなど、会場内の様子を見て発表者自身が総合的に判断することになる。たとえば特に質問されなくても、ポスターの前に数人集まってきたところで「それでは説明を始めましょう…」と説明を開始するなど。

《謝辞》

本手引きは、西洋中世学会の「ポスター発表のガイドライン」を元に、日本中世英語英文学会の実情に合うように編集したものである。利用を快諾された西洋中世学会の関係者各位に感謝申し上げます。